

## 日本人の思ひやり

日本人は、大事な物事を決める場合でも、敢て自分の意見を述べる事をせず、他人の意見に従ふ、といふ傾向がある。だから、その決定した内容が、自分にとって少々不満に感ずるものであっても、大勢に順応し、皆に同調して行かうといふ気持が強い。

然も、このやうな場合でも、決していやいやながら同調するといふのではなくて、気持をさっぱりと切り換へて、積極的に同調して行くのである。その根柢には、「集団生活を営んで行く上には、自分に多少の不都合があるのは当然の事であって、それを我慢しなければ集団生活を営むことは出来ない」といふ認識があるからである。

このやうに「いつも全体の事を考へ、周囲の人々に気を使ひ、自分勝手な行動を慎しむ」といふのが、典型的な日本人の態度なのである。ところが、最近、外国の人々の口から聞かされる言葉は、「日本人は自分勝手に、他人に対する思ひやりの気持に欠けてゐる」といふ言葉である。これは一体どうした事であらうか。

これには二つの理由があると私は考へる。その一つは、日本人の思ひやりが、よその国の人々の思ひやりと大変な違ひがあることに因る。「己の欲せざる所は人に施すことなかれ」だったら間違ひが無いのであ

るが、日本人の思ひやりは「己の欲する所を人に施せ」といふものであるから、有難迷惑になる恐れが多分にある。その上、「その行為は相手の為にしたのだといふ事を、相手に知られないやうにしてやるのが、本当の思ひやりである」といふ考へ方がある。つまり、相手から「有難う」と言つて感謝されるやうな思ひやりや親切な行為は、下の下の思ひやりや親切であつて、「相手が全くそれと気が付かないやうになされた思ひやりこそが、日本人が考へる“本当の思ひやり”である」といふものである。

然しながら、外国人の思ひやりや親切は、全くこの反対の形で行はれる。“what can I do for you?”と言つて、相手の希望する所を尋ね、その求めに応じて手を借してやる、といふのが欧米流の思ひやりであり、親切である。ところが、日本では、さういふやり方は相手を軽蔑した事になるものであり、相手に対して大変失礼な事になるのである。

だから、電車の中で、若者が老人に席を譲る場合でも、下車するやうなふりをして席を立つことが多い。事実、席を譲られると、頑固か老人などは、「わしは席を譲られるほどまだ老いぼれては居らぬわ」と言つて怒り出す者がある。然し、このやうに怒る事は決して日本的ではない。他人から受けた好意は、たとへそれが「有難迷惑」であつたとしても、感謝して受けるのが、人間としての、とりわけ日本人としての常識なので

## 日本語の再発見

ある。わけでも、「己の欲する所を人に族せ」といふ日本流のやり方では、当然、有難迷惑が多くなるのが自然の勢ひであるから、なほさらの事である。

もう一つの理由は、「今の日本人には、日本人らしくない日本人がふえてある」からである。これは、敗戦によって自信を喪失したために、立派な伝統や習俗までも劣ったものと思ひ込み、これを自ら棄て去ったことに因るものである。